

## [019] 文獻探究表紙奥付等

<http://hdl.handle.net/2324/10128>

---

出版情報：文獻探究. 19, 1987-03-31. 文獻探究の会  
バージョン：  
権利関係：



編集後記

己の学的探究と論文執筆とは一応別物であるとして、同人雑誌の維持存続と原稿の献身的寄稿とは、言ってみれば親指と人差し指との関係に似ている。飯を食うにも一方が欠ければ箸も持てぬ。いや、ペンさえ持てぬ手で何が雑誌の存続か、学的探究が聞いてあきれられるさい事である。自分の論文がその雑誌に(へない)ということには、言ってみれば自分のアリバイ(不在証明)である。私はまだここにいるという事だ。それを今さらうじやうじやけた赤ら顔など薬にしたくもないのだ。かけ声だけの編集者などすぐでも下りろ下りろ。

これはサービス。編集者もこれでなかなか多忙である。多忙を極める年度末にもかかわらず若木先生には貴重な御寄稿を賜りましたという訳で本号もまづはつつがなく世に出る事になりました。ゆくすえ久しく御愛読の程を。(山崎記)

論文を御寄稿下さるとの意思表示が前も、てあつた方八名、直接、論文を御投稿下さ、た方が二名あり、衆を編集になると思つていた。

ところが、海外からの御投稿には連絡が取りにくく、又、翻刻等の清書もこちらでは引き受け難い事もあり、これらの方々にはもう少し時間的余裕が欲しいという事で掲載出来なくなつてしまつた。

新たに、突然の出来事が執筆者に生ずるという事で、二名の方が今回は遠慮されてしまつた。

やや薄手かもしりませんが、精一杯やりました。

(江口記)